

理想郷チユロツブ

第一 清水 術 敏寄

スマトラ島

「スマトラ」島は蘭領東印度諸島の中では最も大きな島で、面積十六万二千二百六十八方哩、最長千有余哩、日本内地及台灣の合計面積に略西敵して居る。

位置は赤道を中心として、西北より東南に傾はりて居る、西部海岸に近く中央山脈南北に亘りて聳え、最高峰「インドラプーラ」一万二千尺「デング」一万四百尺始め五、六千尺の峻峯が雲に連りて居る、此の山脈が分水嶺となり、之れより流出する幾多の長江細流、大平野を潤ほし、數千噸の船を河口より百哩遡江せしむる長江も少なくない、東海岸には大平野多く、西海岸は峻山直に海に迫りて居る。

而して此の峻嶺高峯の間には、大谿谷、大盆地、大平野が抱擁されて居る。

平野にはゴム、椰子、煙草、などの栽培が盛で、千尺近き處より上はコーヒー、茶、などである。

日本の峻山峻峯は概ね危岩突兀として氣候寒冷、僅に高山植物の

生育を見る位であるが、こゝは加何なる高部と雖も頂上迄樹木鬱蒼として茂り、三千尺の高地も猶地味豊沃清水流れ、氣候清涼耕作に適する。

此高山の間の大盆地、大谿谷は概ね土地肥沃、人口稀薄、今猶千古斧鉞を知らざる處女林も多い。

最近「スマトラ」に對し、和蘭の植民根本政策たる、交通機關の完備に於て着々その歩を進め、鐵道は年々延長し、道路の完成も急ぎつゝあれば、如何なる深山幽谷も自動車を以て疾驅し得られ、人家軒を並べ、炊烟相望むを見るも蓋し遠いことではあるまい。

理想郷「チユロツブ」は此の高地のうちの一大盆地である、盆地と云ふても、信州の松本平位はある。

此の地は西海岸より東海岸に至る國道が貫通して、交通の利便があるのみならず、地味肥沃、水は清冽而も氣候は殆ど熱帶圈内と思へぬ程の好適さである。

此の外に最も喜ぶべきは明媚なる山容水態、母國の風光に髣髴たること、土人が一般に性質順良で、邦人に對して尊敬親愛の情有有して居ることである。以下今少し詳説する。

樂郷チユロツブ

地點、南「スマトラ」の南部東海岸の要港を「パレンバン」と云ふ新嘉坡から二百八十哩午後四時K.P.M.會社の船で出帆すれば、

翌日は途中錫の産地「バンカ」島に二時間程逗留し、夕刻は已にムシ河口に入り遡ること六十哩、夜十時には既に「バレンバン」に着く。

「バレンバン」とは反對に、西海岸に英領時代の首都「ベンクルン」と云ふがある、此の兩市街は中央山脈の高地を横斷する國道を以て通して居る。

「チヌロップ」は此の途中の高地にあるので、「バレンバン」より四百十五キロ「ベンクルン」よりは八十五キロの地點にある。今「バレンバン」より國道を高地に向つて進み分水嶺たる「ホスピタル、ピリンギン、テガ」「バレンバン」より三百九十餘キロの高地を出ぬけると「チヌロップ」の沃野は眼前に展開する、前方に見えるのが、カバ山で頂上迄樹木茂り、白雲捲曳し、右の方には小丘が颯々起伏して居る、此間一面鬱々たる綠樹を以て被はれて居るのが、常世の香土「チヌロップ」である。

東カバ山を始め北より西に廻れる連山の豁谷を流れ下る幾十の清流は此の沃野を潤して到る處、綠蔭に被はれて深々の響をなして居る、特に地下掘ること幾何ならず清水滾々として湧き出るなど實に天惠の饒なるに驚かざるを得ない。

天惠なる常春郷

赤道直下の場所であるが、此處は標高五百メートルから九百メー

トルの處であるから氣温もずつと下る、今一年中の統計を見ると年中殆ど大差なく、夜明け前が華氏六十六七度日出より十時迄は七十二三度、日中最も暑き時と雖も八十二三度より八十五六度に過ぎない此の時刻は正午より三時頃迄である。

日中野外を散策するに直射光線は可成り強いやうなれど、涼風肌にかく、恰も東京に於て涼秋十月尾花刈萱亂れ咲く武藏野を歩む心地とや言はん。

元來熱帯は乾雨兩季ありて、乾季には殆ど雨を見ざるを普通とすれど、此地は乾季と雖も午后四時頃となれば驟雨來り一、二時間にして止む、毎日斯の如くなれば四時の區別なく万物は生々として成育する。柔の如きは何時切り直しをしても直ちに若芽が出る。夜に至りては晩秋の涼氣肌に迫る、夜十時の頃ともなれば、單衣の浴衣肌寒く、下に毛織の肌衣をつく、夜二時より夜明頃は氣温最も低く寢具に毛布二枚を用ふるも猶肌寒さを覺ゆるのである。

非常の健康地

以上の氣候で水が良いので非常に健康に適し、マラリヤ、赤痢、とか、ペストなどの地方病、流行病は更にない、のみならず平地に於て「マラリヤ」に犯され永年治癒しなかつたものも此地に來れば自然にいつか知らず治る、従前日本の賣藥が南洋の隅々迄に行き渡つた頃でも此地方は産前産後の藥の外は賣れなかつたと云

ふことである。
から云ふ氣候は世界中恐らく何處に行つても見出せないであらう。

多種多様の植物

赤道直下で清涼の氣候であるから熱帯、亜熱帯、温帯の植物は繁茂し樹々枝を交へ葉々重なり、一望「チヌロツプ」の沃野は鬱々蒼々翠緑を以て被はれて居る。

椰子の如きも砂糖をとる砂糖椰子、油をとる油椰子、又之が花裡の處を切りて酒もとれる。野生のごむがある、竹の如きも徑一尺に至る大竹もあれば、魚釣竿にする小竹もあり、根根とする倭小のものもある、植木の如く一團となりて叢生するもあれば、一面に簇々生へて居るもある、芭蕉の如きは一株植えれば忽ち繁殖して始末におえぬ、木綿は何處迄行つても水平に枝を張つて居る果樹には南洋獨特の「ドリアン」「マンゴステン」「ランボタン」「ヂヤンブー」がある。

山林深く入れバ「ムランチー」などの喬木亭々として百數十尺天を壓するものもある、枝より枝に這ひまつはる「かつら」には渦したるとき切りとりて、ビール瓶をあつれば忽ち甘露の如き清水瓶一杯に滿つるものもある、花卉に至りては珍奇異種數ふるに遑なし、唯鬱蒼々として青緑紅黄千紫万紅色彩の妙、林相の美、思

はず三嘆の聲を發する、日本の野菜的の如きも蔭けば必ず生へ、生ふれば必ず長ず、而して其の風味に於ても敢て遜色はない。

發展の道程にある

チヌロツプ

此の沃野の中に位置を占め、發展の道程にあるのが「チヌロツプ」の街である「チヌロツプ」は今の處戸數八百位のものであるが「バレンバン」より「ベンクレーン」に至る交通の要衝に當り、更に西北「モアラアナム」の金鑛方面に至る自動車道路の基點である、附近には、カバ山を廻るコーヒー園ヲ扣へ豊なる農民部落が國道に沿ふて續く

郡廳は現在「カバヤン」にあるが、此處は沃野の南端行き詰りの地に偏在して居るので、遠からず此の地に移轉さるゝことになつて居り、兵士駐屯所も設ける筈である、製氷會社は既に出來、今年七月を以て開催さるべき共進會を機とし新市街建設の計劃中で既に野生ゴムの喬木林は伐り倒され圓形の廣場、五方に延び行く道路は今工事中である、競馬場運動場の區域も定められ、家屋建築法案も發布され新市街建設の準備は着々として進んで居る。生氣に充てる「チヌロツプ」街は今や新裝を凝らして衆人環視の裡に立たんとして居る。

幽邃郷「スーバン

バナス」温泉

「チエロッパ」の郊外温泉の湧き出る處がある「スーバンバナス」と云ふ、國道から數町の處にある、プチ川の溪流に臨んだ谷あひで藩々たる大木巨竹を以て被はれ翠蔭畫猶暗き程である。

温泉は水量多く湯口幾條滾々として川に流れ込む、其の中岩窟の奥より湧き出るのが自然の浴槽をなして居る、溫度は熱に過ぎず冷に過ぎず宜しきに適し快い、若し夫れ自然の浴室にて細砂を穿ちて石を枕に仰臥すれば翠蔭天を被ひ潺湲の響耳に爽かで、野趣横溢眞に塵外の神仙郷である、成分は未詳であるが兎に角土人は子なき婦人に特效あるものと信じて居る。

土 人

此の地方の土人を「レヂヤン」と云ひ「ベンクローレン」や「バルンバン」とも違つて居る、性質は極めて純良朴實、農業に従事し米野菜の主要食糧の外に「コーヒー」煙草などを作り、相當收入もある、餘りあれば裝飾品などを買つて、過去も未來も考へず悠々自適の生活を送つて居るものが多い、隨て他に儲はる、ことなどはせぬ、それでも近時は一般の風潮に刺戟せられて、五

六千圓もかけて家屋を新築すること流行し、又青年の間には自動車を購入し運轉手となるなど相當金儲けの途を考へて来るやうになつて來た、宗教、一般にマホメット教を信じ、絶対に酒を飲まず、豚を食はず、年一回一ヶ月は齋戒して、日中は食物をとらぬ。

畢生の願望は「メツカ」に行き「マホメット」の本山に參詣することである、是れが爲めに蓄財もする、一度參拜をすませたものは「ハチ」と云ひ村の先達格となりて巾をきかせる、土人は何事も運命に任せて悲觀しない、子供が死んでも運命、泥棒に合ふも運命で、運轉手に何時に着くかと聞けば、わからぬと云ふ、神様が故障なく走らせて呉れるなら着けるが、人間には夫れがわからぬのである。

日本人に對しては一般に尊敬の念を持ちて居る、關人は支配者として親み難い、支那人は豚を食ふので外道である、輕侮の眼を以て視る、此のうち日本人は風貌生活酷似したる處多く、日露戰爭以來東洋民族中の一等先進國として憧憬の的となつて居る、日本人とし言へば如何なる人でも勇敢で、何事にでも通曉して居るものと思ひ、特に病氣などには、治療を頼むと云ふ位である。

産 業

土人は人口稠密なる「ジャワ」とは比較にならぬ廣い土地のある

ことゝて、米(水田、陸田)を作り「タビオカ」を作り山羊、牛を飼ひ「バナ」、「コーヒート」を栽培し、中にはゴム園を作り、生活費を得殆ど自給自足で、單調なる生活に満足して居る、土地も一ヶ所を耕作してそこが衰へれば、更に他方に新地を開く、よしんば開かなくても「バナ」、「數本を植ゑても之れが自分の土地である」と言へば、夫れでも通用すると言ふので至極呑氣に考へて居る。「チヌロップ」街ノ如き日に濶展し、土人は藪ふて新しき家屋を建築し家具は日常必須なるも練達の職工はない緩漫無措の土人の手による外はない、深山に百尺餘の樹木は密生して居るも之れを製材するは舊式の鋸である隨て材木は高い所在水流はあるも動力に活用しては居らず。

農業に於ても米は施肥せず殆ど粗放農法である市場の卵は一ヶ七、八錢であるが養鶏もやらぬ、市街は急激に進歩しても土人が順應する能力がないのである、悠々緩々ぶらぶらやつて居る。

母國に於て生活難に苦しみ抜いた支那人が至る處勢力を張り根柢を固くして居るのは彼等の忍耐精苦にもよるが自然の要素も備はりて居るとも云はねばならぬ。

養蠶に至りては温度調節も要らぬ、桑は枝を一尺程に切りて地に挿せば忽ち發育する何時にても切り直しをすれば發芽するから年中養蠶が出来る。

既に此の沃土此の氣候、此の市街がある、此の羨望に於て邦人の勞力智力を活用したならば一帯十里の沃野は忽ち羨なる花園の如き農園となり、市街は文化的に燦爛たる光輝を發揮するであらう否一日も早くさう言ふ時期の來ることを切望して止まぬ。「チヌロップ」所在の州を「ペンクローレン」州と云ふ、州と理事官(レンデント)は曰く、日本人が眞にスマトラの産業開發に努力して呉れるならば、總督とも打ち合せ適當な土地を得ることに盡力するであらう、總督も最も歡迎して居る處である。

三民主義かぶれの支那人の流入は最も和蘭政府の喜ばざる所である。スマトラの平野はゴムの栽培にて餘地渺なくなつて居る、殘されたるは高地である、土地肥沃で氣候の良い。此の高地は邦人活動に於ける好適地であり、又得意の好舞台である。又夫れが和蘭の爲めにも日本の爲めにも相互の利益であり幸福である、スマトラ文化の開發は實に日本民族の使命である。

三笠農園

綿入れの襦着、毛布二枚を貸して貰つたので寒くはなかつたが、夜明けには五十八度である側の林で鳥の囀の聲に眼をさます、起きて表の戸を開き玄關に立つ立ちて表の景色を眺める、前の庭にはダリヤが咲き、朝顔が咲き、カンナが咲いて居る、其他熱帯の珍らしい花もある、これらの草花は雨に濡れたやうに、しつとり

と露に濡れて居る、其先きにはあずまやがありて「テニス」のコートが出来て居る、庭の右の方には竹の一叢が丈高く延びて居り其からは桑の畑である、街道から庭の左側に一直線に一三〇メートル本館の廣迄道路を開けて自動車が入る、道路から左の方は密柑畑である。

道路と「テニスコート」の間は土人のコーヒー園が若干あり、雑林もある、林の茂みの上からは椰子の木などが見える、街道を朝早く自動車の音も聞える、其先き一面の鬱蒼たる樹木で、遠く「カバ山」の麓迄続く否カバ山の頂下迄一面に樹木で被はれて居る。

カバ山は翠緑を以て被はれた山で孤立した山ではあるが、去り連圓錐形に兀として天空に聳えたと云ふではない、と云ふて布圍着で寝たる姿としては少し堅過ぎる、兎角穏かな平和な感じを與へる山である、朝日はかば山と分水嶺の間の邊より差し上る。

朝の冷たき爽かな空気を吸ふて「テニスコップ」の沃野に眼を放てば、熱帯の強き光線、爽かな空気が、肥沃なる土壌、饒なる雨露の限りなき天恵に生々と伸び行く草木の生氣に打たれ連日の疲れは消散し全身に潑灑たる元氣はよみがへる。

洗面所の水は綺麗でつめたい、側の井戸をのぞけば數尺の下には湧いて居る、ポンプの柄を少し動かせば清冽な水は忽ちセメントの水槽に充ちる。

庭には鶏が食をあさりて居り犬は猫と戯れて居る、靜かな平和な光景である。

伯林より

原 田 親 雄

此の記はドイツの伯林に御滞在中の先生が校長先生に宛て、書かれた手紙の一節です。

ライン地方の旅

九月九日夜、汽車にて獨逸人の團體旅行に参加してライン地方の旅行に出掛けました。日本人は東京高工の竹内氏、東京工大の芳井氏と文部省の宮島氏夫妻と私の五人でありました。先づケルンに参り一行と觀光を共にしたる後暇を作り印刷博覽會を見且つ郊外にタクシーをばせてライボルト理科學器械製作工場を見學致しました。十一日にはケイニヒスウインターへ参りデーベンゲルグに登りたる後私共のみボンまで参り其大學を見學致して歸りました。其夜は土地の鐵道官吏及ホテル組合の歡迎會をうけライニツシエアーベンドの催あり相當茶目を發揮致しました。

十二日は船にてラインをのぼりゴブレンツまで参りました。中途よりハンノーバー附近のキリスト教女子大學の卒業修學旅行の